

本学図書館の利用者への質問紙調査と今後の展望

石 沢 信 人, 村 山 ヒサエ, 山 田 正 実,
長 野 勝, 水 口 陽 子

新潟県立看護短期大学・図書委員会

The result of library user questionnaire at completion year.

Nobuhito ISHIZAWA, Hisae MURAYAMA, Masami YAMADA,
Masaru NAGANO, Youko MIZUGUCHI

Summary Our college has founded for three years and completion year comes. It is important to complete opinion and thought of library user about our college library at this time. We think this result has value for operation for our library. We used questionnaire for this investigation. Subjects were all nursing students and full-time faculty of our college.

Our college aim the open-door college to a region. With this principle, our library can use outsiders who are allowed by the chief librarian. Through this study, it is cleared that no faculty opposes this open-door college library principle. And this investigation made us see the opinion and thought of insiders. We think that this result is in common to convenience both insiders and outsiders.

要 約 開学3年を経て完成年次を迎えた。これを機会に本学図書館の利用者の意見をまとめることが、今後の図書館運営に資すると考えた。質問紙法により看護学科学学生と常勤教職員を対象に調査を行った。

地域に開かれた大学を理念としている本学では、図書館の学外者への開放を行っているが、これに反対の教職員はいなかった。また、学内利用者の意見を調査することにより、その意見や考えを明確にし得た。この知見は、学内外の本学図書館利用者の利便性を図る図書館運営を考える上で有用な資料となり得るものである。

Key words 図書館 (library)

開かれた大学 (open-door college)

図書館利用者 (library user)

図書館運営 (library management)

看護学生 (nursing student)

I. はじめに

本学は「新潟県における看護情報の発信基地」を理念として開学した。これを達成するためには、図書館運営も重要な要因である。本学開設時に、表1の如く図書館の具体的な収書指針が定められた¹⁾。

開学3年を経て完成年次となった今年、この指針がどの程度達せられているのかを振り返り、本学図書館の利用者の図書館に対する考えや意見をきき、今後図書館運営をスムーズにする資料として、看護学科第1期生から第3期生及び本学常勤教員に調査表を配布して回答を求めた。その結果に若干の考察を加えて報告する。

表1 収書指針（平成4年7月）¹⁾

1. 医学・看護学に偏り過ぎることなく一社会人として必要な教養・知識を身につけられるようできる限り多くの分野の図書を収書する。
2. 短大のカリキュラム上必要となる分野の蔵書を充実させる。
3. 医学・看護学分野の図書の収書方針。
 - a. 医学・看護学を更に細かく分類し各細分類ごとに必要な基本書、専門書、ハンドブック、アトラス類を選書する。
 - b. 癌・成人病・AIDS等深研究をする必要がある細分類については更に充実を図る。
 - c. 看護婦国家試験の過去の出題傾向から、出題数の多い細分類については更に充実を図る。
 - d. 基本書、重要な図書については複本とする。
 - e. 教官の研究活動や看護婦の卒後教育に配慮し、実務面についても充実させる。
 - f. 最新の医学・看護婦をリアルタイムで収集できるように学術雑誌を充実させる。
 - g. 医療・看護技術についての映像情報を充実させる。

II. 方 法

1. 調査対象

本学看護学科学生（1年生：100名、2年生：98名、3年生：96名）と本学常勤教員（40名）の全員を調査対象とした。調査用紙の配布数は334枚、回収率は80.5%であった。

2. 調査期間

1997年3月1日～1997年5月31日。

3. 調査方法

質問紙を作製・配布し、留め置き法により回答を求めた。

4. 分析方法

回答結果の処理にはMicrosoft Excel for Win. 95 Ver.7 (Microsoft 社) と統計学プログラム・パッケージ HALBAU ver.3 (現代数学社) を用いた。統計学的検定は、 χ^2 検定を行い、危険率5%未満で有意差ありと判断した。統計学的検定は学年とそれぞれの質問項目についての学生の回答結果の間の関連を検討するために行った。学生の回答結果は、実数を用いて処理した。グラフはパーセンテージ表示を採用した。

5. 調査項目

学生と教員の質問内容は、概ね共通する質問であるが、若干の違いを設定した。その内容を表2に示した。

III. 結 果

1. 回答者の属性

回答者の属性を図1に示した。

2. 利用頻度

図書館の利用頻度を図2に示した。学年と図書館の利用頻度の間の関連を検討した。図書館を毎日利用する学生数は2年生と3年生では、3年生が増加していた。毎週1回以上図書館を利用する学生数も、同様に3年生で増加していた。図書館を毎月2～3回程度利用する学生は、1年生よりも2年生が増えていた。しかし、3年生では1年生、2年生のいずれとの比較においても、図書館を

表2 調査項目

I : 学生への質問内容.

- 1) 図書館の利用頻度.
- 2) 図書館の利用時間帯.
- 3) 図書館の利用目的.
- 4) 図書館の開館時間.
- 5) 図書館の開館日.
- 6) 図書館の蔵書.
- 7) 図書の貸し出し図書数.
- 8) 図書の貸し出し期間.
- 9) 図書館の設備.
- 10) 図書館ガイダンス.
- 11) 図書館員の対応.
- 12) 図書館利用時の感想.

II : 教員への質問項目.

- 1) 図書館の利用頻度.
- 2) 図書館の利用目的.
- 3) 図書館の開館時間.
- 4) 図書館の蔵書.
- 5) 図書の貸し出し数.
- 6) 図書の貸し出し期間.
- 7) 図書館の設備.
- 8) 図書館員の対応.
- 9) 図書館利用時の感想.
- 10) 図書購入希望調査の提出状況.
- 11) 学生への図書の紹介.
- 12) 選書方法.
- 13) 図書館の雑誌.
- 14) 図書館運営の意見.
- 15) 図書館の学外開放に対する意見.

毎月2～3回程度利用する学生は減少していた。図書館の利用が1ヶ月に1回未満であるという学生は、1年生よりも2年生で、2年生よりも3年生で減少していた ($p<0.01$)。以上のことより、図書館の利用頻度は学年が進むほど増加していることが明らかとなった。

3. 利用時間帯

主に図書館を利用する時間帯を学生に質問した結果を図3に示した。各学年とも午前中よりも午後の時間帯に利用者が多かった。

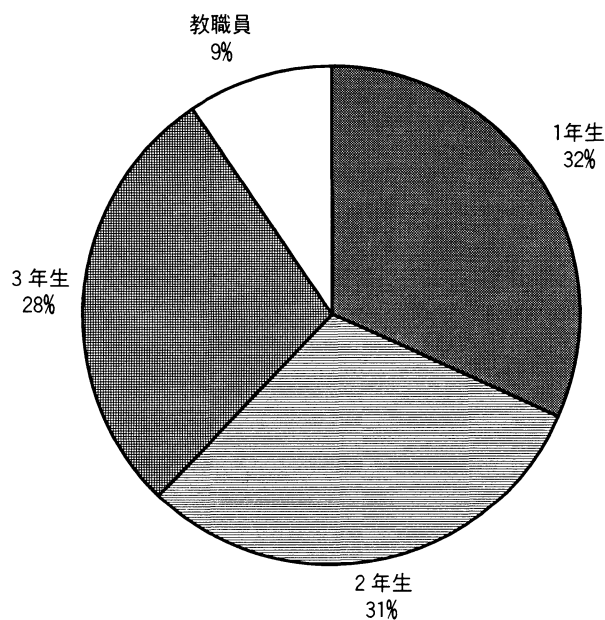


図1 回答者の属性

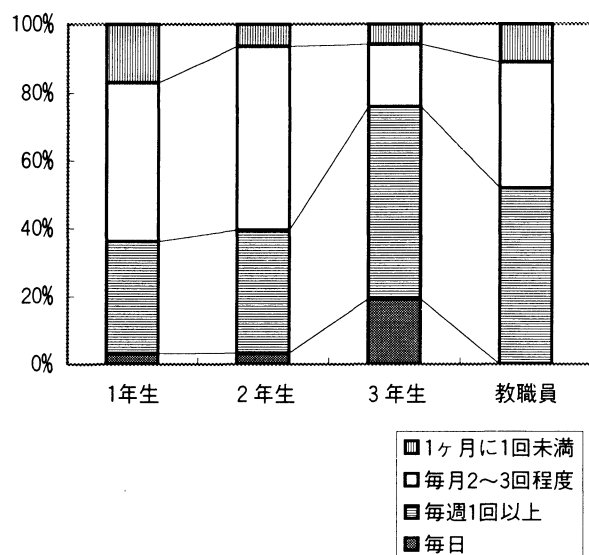


図2 図書館利用頻度

4. 利用目的

図書館の利用目的の回答結果を図4に示した。すべての回答者群において「学習する」「本を借りる」「蔵書の閲覧」が主たる利用目的である。

5. 開館時間に対する満足度

図書館の開館時間に対する満足の程度を図5に示した。学年と図書館開館時間に対する満足度の間の関連を検討した。「満足」と回答した学生数は、1年生よりも2年生で減少し、3年生は2年生よりも減少した。「やや満足」と回答した学生数は1年生、2年生に比べて3年生では増加していた。「普通」と回答した学生数は1年生よりも2年生で増加し、2年生よりも3年生で減少した。「やや不満」と回答した学生数は1

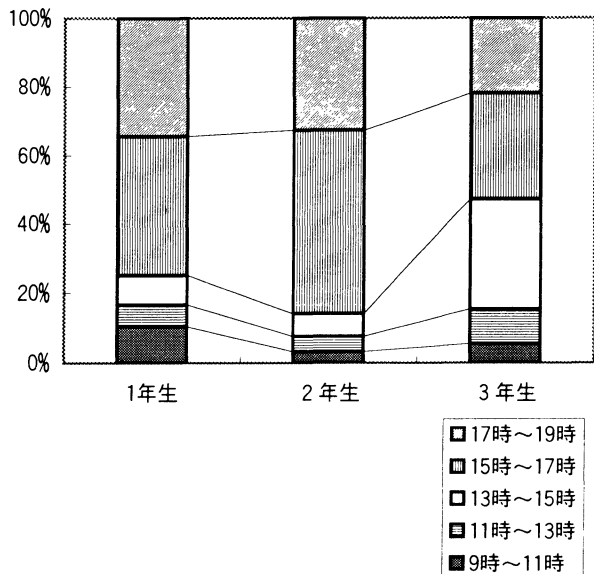


図3 学年別図書館利用時間帯

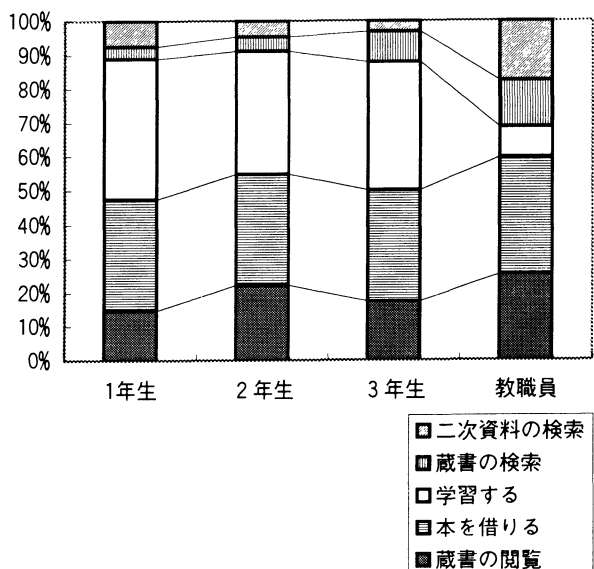


図4 図書館利用目的

年生よりも2年生で、2年生よりも3年生で増加していた。「不満」と回答した学生数は1年生よりも2年生で減少し、2年生よりも3年生で減少傾向にあった($p<0.01$)。全体として、学年が進むほど「満足」と回答する学生が減り、「やや満足」「普通」「やや不満」と回答する学生が増加していた。

6. 蔵書に対する満足度

図書館の蔵書に対する満足度を図6に示した。学年と図書館の蔵書に対する満足の程度の間に関連を検討した。「満足」と回答した学生数は、1年生よりも2年生で減少していた。また、1年生よりも3年生で減少していた。しかし、2年生よりも3年生で「満足」と回答した学生数が増加していた。やや満足と回答し

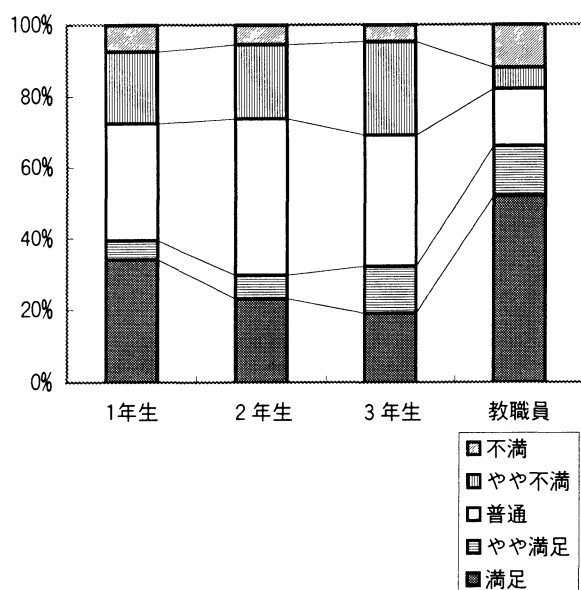


図5 図書館開館時間への満足度

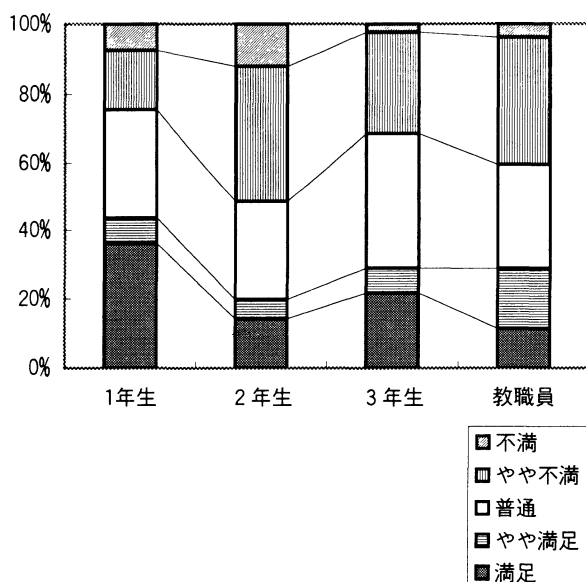


図6 蔵書への満足度

た学生数は、1年生および3年生よりも2年生で減少する傾向が見られたが、1年生と3年生の間では差が見られなかった。「やや不満」と回答した学生数は、1年生および3年生よりも2年生で増加した。1年生と3年生の間では、3年生で増加した。「不満」と回答した学生数は1年生および3年生よりも、2年生で増加し、1年生よりも3年生で増加していた($p<0.01$)。即ち、蔵書に対する満足度は1年生が最も高く、次いで3年生で高く、2年生の満足度が最も低いという結果となった。

7. 購入希望図書分類

蔵書の充実を希望する図書分類を表3に示した。一般図書分類では「社会科学」、「自然科学」、「文学」が購入希望の上位3分類であった。看護系図書では、「臨床看護」が学生、教員を通じて購入希望図書分類の第1位であった。

その他の希望として、「闘病記」「教育関係図書」「人間工学系図書」「科目ごとにも希望図書をとる」があった。

8. 貸出図書数に対する満足度

図書館の貸出図書数に対する満足度を図7に示した。学年と貸出図書数に対する満足の程度の違いの間に関連を検討した。「満足」と回答した学生数は1年生よりも2年生で減少し、2年生よりも3年生で減少した。「やや満足」と回答した学生数は1年生と2年生の間では有意な差はなかったが、それぞれに比べて3年生では増加していた。「普通」回答した学生数は1年生

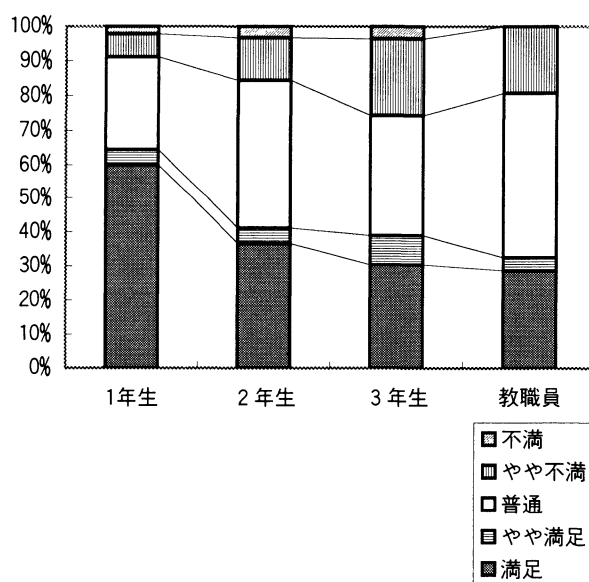


図7 貸出し図書数に対する満足度

および3年生よりも2年生で増加し、1年生よりも3年生で増加していた。「やや不満」と回答した学生は、1年生よりも2年生、2年生よりも3年生で増加していた ($p<0.01$)。「不満」と回答した学生数は1年生よりも2年生、3年生では増加していたが、2年生と3年生の間では差が見られなかった。以上より、学年が進むほど貸出図書数に対する満足度が低くなることが明らかとなった。

9. 貸出図書数についての希望

学生の希望する図書貸出し数を表4に示した。「6～8冊」までの貸出し許可により、90%以上の学生の希望する貸出図書数を満たすことができる。また、教員については、「16～20冊」の貸出許可により教員の希望する貸出図書数の90%以上を満たすことができる。

12. 図書館の設備に対する満足度

図書館の設備に対する満足度を図10に示した。学年

表3 購入希望図書分類

	1年生	2年生	3年生	教員	合計
哲学	6	0	0	0	6
歴史	6	4	0	7	17
社会科学	6	3	5	14	28
自然科学	7	22	9	10	48
技術・工学・工業	0	0	0	4	4
産業	1	0	0	0	1
芸術	5	6	1	4	16
言語	6	2	1	2	11
文学	21	15	6	10	52
総記	0	0	2	0	2
臨床看護	11	36	22	14	83
精神臨床看護学	6	17	7	2	32
リハビリテーション看護	7	8	8	2	25
公衆衛生・地域看護	2	11	16	5	34
看護制度・法規	1	2	1	2	6
看護管理	2	5	3	2	12
看護教育	4	4	2	7	17
看護総記	1	2	6	0	9
その他の領域の看護図書	0	3	0	3	6

表4 貸出し希望冊数

10. 図書貸出期間に対する満足度	貸出し図書数	1年生	2年生	3年生	学生全体	貸出し図書数	教職員
する満足度	1～3冊	10 (18.5%)	4 (6.8%)	2 (3.3%)	16 (9.2%)	1～5冊	4 (23.5%)
図書館の図書貸出期間に対する満足度を図8に示した。学年と図書貸出期間に対する満足度の違いの間の関連を検討した。「満足」と回答した学生数は1	4～5冊	32 (59.2%)	40 (67.8%)	33 (54.1%)	105 (60.4%)	6～10冊	1 (5.9%)
年生よりも2年生で、2年生よりも3年生で減少した。「やや満足」と回答した学生数は1年生よりも2年生で増加し、2年生よりも3年生で増加した。「普通」と回答した学生数は1年生よりも2年生で増加し、2年生よりも3年生で減少傾向にあった。「やや不満」と回答した学生数は1年生と2年生の間では差がなかった。しかし、両学年と3年生との比較では3年生において増加した ($p<0.01$)。「不満」と回答した学生数は、各学年間の比較で差がなかった。以上より、学年が進むほど貸出図書数に対する満足度が低くなることが明らかとなった。	6～8冊	9 (16.7%)	15 (25.4%)	23 (37.7%)	47 (27.0%)	11～15冊	8 (47.1%)
	9～10冊	1 (1.9%)	0 (0.0%)	3 (4.9%)	4 (2.3%)	16～20冊	3 (17.6%)
	10冊以上	2 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	20冊以上	1 (5.9%)

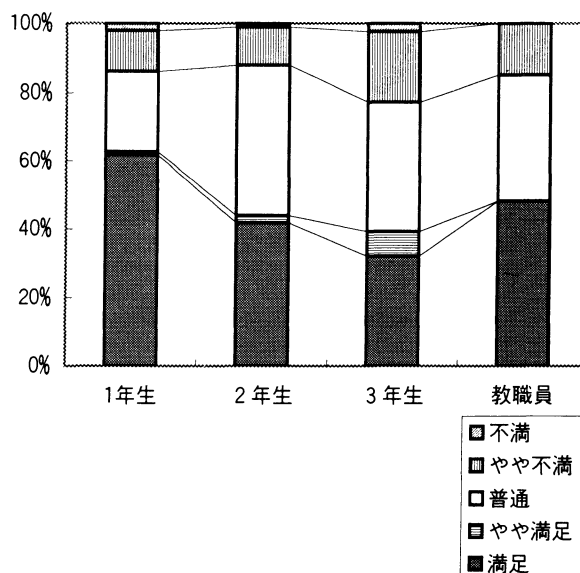


図8 図書貸出し期間に対する満足度

11. 図書貸出期間の希望

希望する図書貸出期間を図9に示した。高学年の学生ほど希望する貸出し期間が長くなる傾向があるが、明確な差異は認められなかった。

と図書館の設備に対する満足度の違いの間の関連を検討した。「満足」と回答した学生数は、1年生より2年生、1年生より3年生で減少したが、2年生と3年生の間では差がなかった。「やや満足」と回答した学生数は1年生より2年生、1年生より3年生で増加したが、2年生と3年生の間では差がなかった。「普通」と回答した学生数1年生より2年生、1年生より3年生で増加傾向があったが、2年生と3年生の間では差がなかった。「やや不満」と回答した学生数は1年生よりも2年生、3年生で増加した ($p<0.01$)。2年生よりも3年生で増加する傾向が見られた。「不満」と回答した学生数は、1年生と3年生の間に差はなかったが、1年生、3年生よりも2年生で増加した。以上より、学年が進むほど学生の満足度が低下することが

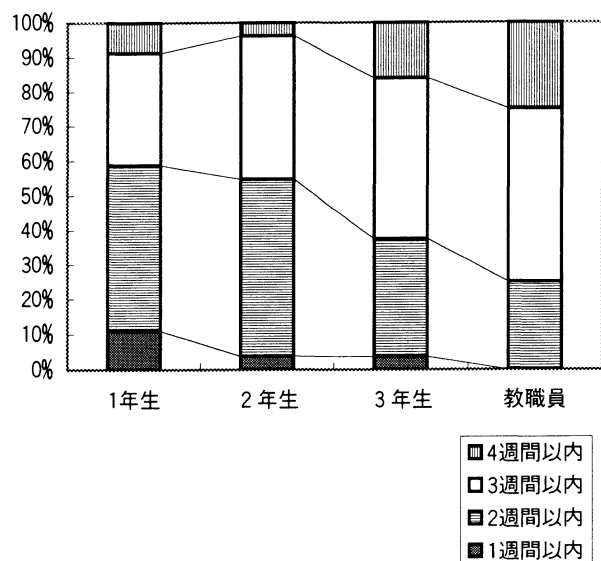


図9 図書貸出しの期間の希望

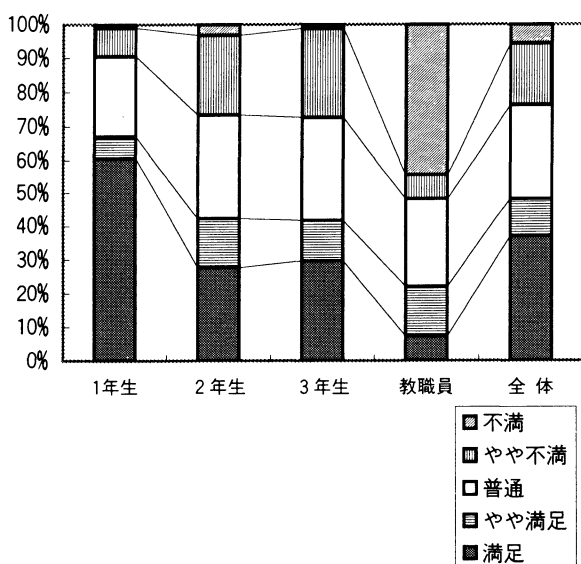


図10 図書館の設備に対する満足度

明らかとなった。また、学生に比べ、教員に「不満」と感じている人の割合が多い。

13. 図書館の設備への希望

図書館の設備に対する希望を図11に示した。学年と図書館の設備に対する希望の違いの間の関連を検討した。「配架方法がわかりにくい」と回答した学生数は、1年生よりも2年生で減少し、2年生よりも3年生で減少した。「コピー機が足りない」と回答した学生数は、1年生よりも2年生で増加し、2年生よりも3年生で増加した。「採光の具合が悪い」と回答した学生数は1年生と3年生の間で差はなく、この両学年と2年生の間では、2年生で増加傾向にあった。「机の数

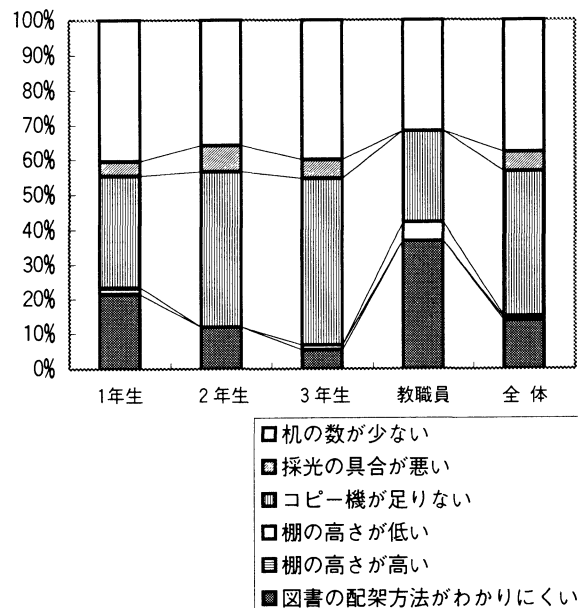


図11 図書館の設備に対する希望

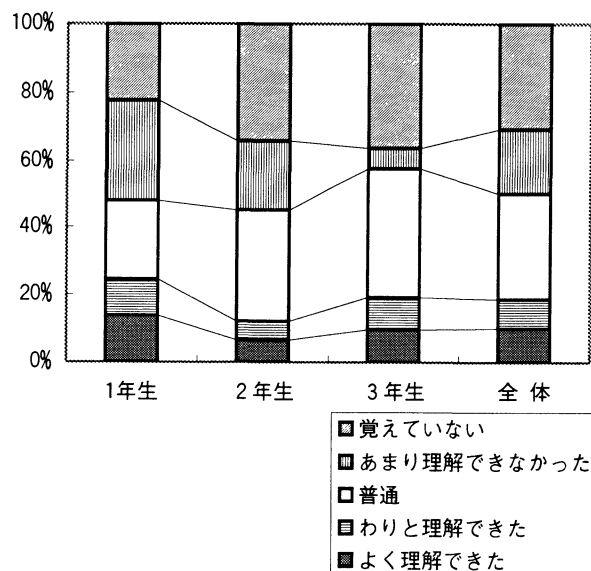


図12 図書館ガイダンスの理解度

が少ない」と回答した学生数は1年生よりも2年生および3年生で増加した ($p<0.01$)。2年生と3年生の間に差はなかった。以上より、学年の進行に伴い「配架方法がわかりにくい」という意見は減少し、「コピー機が足りない」という意見が増加することが明らかになった。回答全体については、「コピー機の増設」「机数の増設」「配架方法の改善」が上位3項目を占め、全体の93%であった。

14. 図書館ガイダンスの理解度

図書館ガイダンスに対する学生の理解度を図12に示した。学年と図書館ガイダンスに対する理解度の違いの間の関連を検討した。「覚えていない」と回答した学生数は1年生に比べて2年生と3年生は増加していた。2年生と3年生の間では差がなかった。「あまり理解できなかった」と回答した学生数は1年生に比べて2年生では減少し、3年生は2年生よりも減少した。「普通」と回答した学生数は、1年生よりも2年生で増加し、2年生よりも3年生で増加した。「わりと理解できた」と回答した学生数は、1年生に比べて2年生では減少し、3年生では減少傾向を示した。また、2年生に比べて3年生では増加傾向を示した。「よく理解できた」と回答した学生数も、1年生に比べて2年生では減少し、3年生では減少傾向を示した。以上のように、学年の進行に伴い「覚えていない」「普通」という回答が増加し「あまり理解できなかった」という回答が減少した ($p<0.01$)。

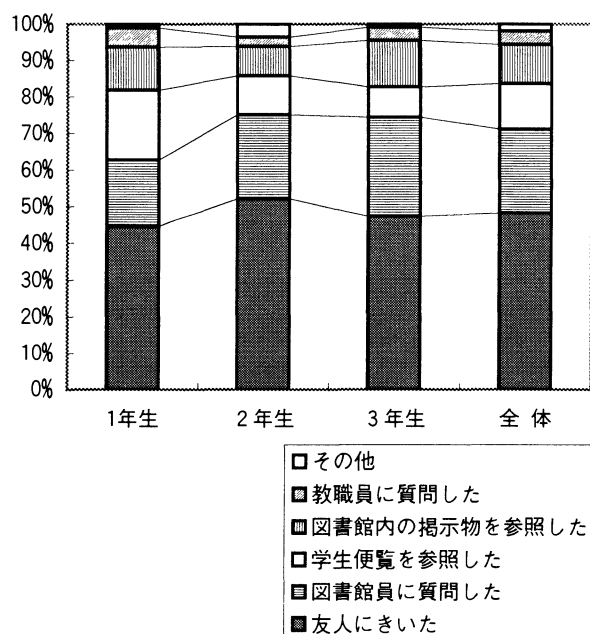


図13 図書館利用時に不明なことの解決方法

15. 図書館利用時の不明なことの解決方法

図書館利用時の不明なことの解決法を図13に示した。学年による解決法に有意な差異は見られなかった。学生全体での解決方法は多い順に、「友人に聞いて解決した」153名 (48%)、「図書館員に質問して解決した」73名 (23%)、「学生便覧を参照して解決した」39名 (12%)、「図書館内の掲示物を参照して解決した」34 (11%) 名、「教職員に質問して解決した」12名 (4%)、「その他の方法」6名 (2%) であった。

16. 図書館ガイダンスの必要性

図書館ガイダンスを充実させる方法についての回答結果を図14に示した。学年による回答内容に有意な差異は認めなかった。学生全体のガイダンスの充実方法についての回答は、多い順に「今のままで十分」113名 (47%)、「資料等の充実」92名 (38%)、「回数を増やす」17名 (7%)、「図書館ガイダンスは必要ない」16名 (7%)、「その他」1名 (<1%) であった。

17. 図書館員の対応に対する満足度

図書館員の対応に対する満足度を図15に示した。学年と回答内容の間に有意な差異は認めなかった。図書館員の対応についての回答者全体の回答は、「不満」20名 (6%)、「やや不満」44名 (14%)、「普通」91名 (29%)、「やや満足」16名 (5%)、「満足」145名 (46%) であった。

18. 図書館利用時の感想

図書館利用時の感想に対する回答結果を図16に示し

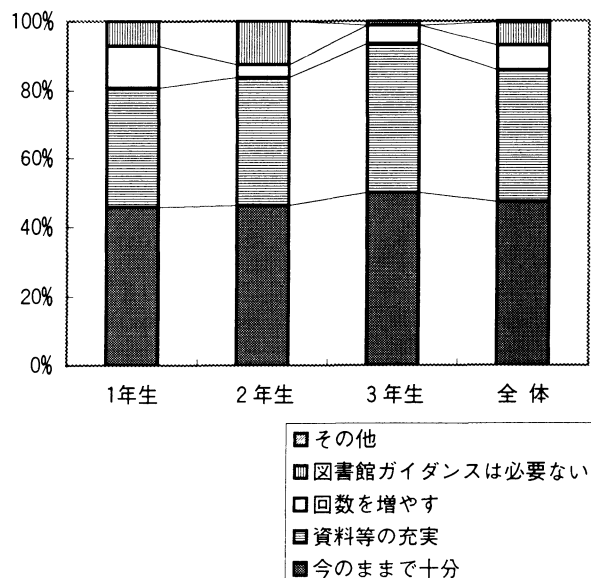


図14 図書館ガイダンスの必要性

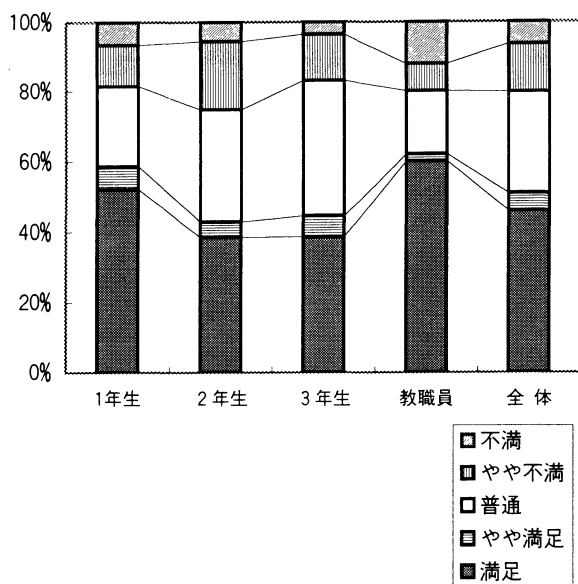


図15 図書館員の対応に対する満足度

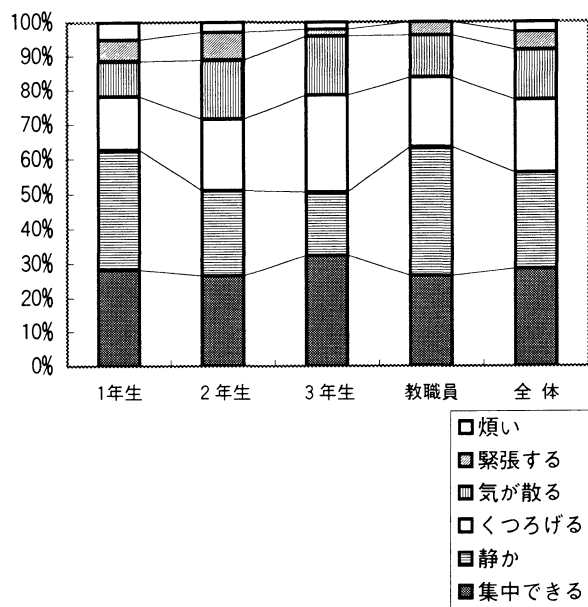


図16 図書館利用時の感想

た。学年と回答内容の間に有意な差異は認めなかった。回答者全体の図書館利用時の感想は、多い順に「集中できる」96名(29%)、「静か」92名(27%)、「くつろげる」71名(21%)、「気が散る」49名(15%)、「緊張する」18名(5%)、「煩い」10名(3%)であった。

また「図書館利用時の感想は、学生がいる時といない時では異なる」、「棚を高くして収容可能な量を増やし、踏み台を用意する」という意見が得られた。

19. 教員への質問

1) 購入希望調書の提出状況について

図書委員会では、収書について図書購入希望調書を教員に配布している。これまでの提出状況について、教員に質問した結果を表5-1に示した。「必ず提出する」6名(24%)、「ほとんど提出する」2名(8%)、「だいたい提出する」6名(24%)、「ほとんど提出しない」5名(20%)、「提出したことがない」6名(24%)であった。

2) 学生への図書の紹介(表5-2)

学生に図書を介绍する程度を、教員に質問した。「時々紹介する」10名(43%)「しばしば紹介する」2名(9%)「よく紹介する」5名(22%)

であった。

3) 選書方法の満足度(表5-3)

現在、選書の方法は提出された図書購入希望調書に

表5 教員への質問

5-1. 図書購入希望調書			5-2. 学生への図書紹介		
提出したことがない	6	24%	紹介しない	4	17%
ほとんど提出しない	5	20%	ほとんど紹介しない	2	9%
だいたい提出する	6	24%	時々紹介する	10	43%
ほとんど提出する	2	8%	しばしば紹介する	2	9%
必ず提出する	6	24%	よく紹介する	5	22%

	5-3. 選書方法の満足度		5-4. 購読雑誌の満足度	
不満	0	0%	0	0%
やや不満	3	14%	6	25%
普通	8	36%	7	29%
やや満足	1	5%	1	4%
満足	10	45%	10	42%

	5-5. 雑誌の利用状況	
利用したことがない	1	4%
ほとんど利用しない	3	12%
時々利用する	12	48%
しばしば利用する	6	24%
良く利用する	3	12%

5-6. 主に利用する雑誌			
雑誌名	回答数	雑誌名	回答数
助産婦雑誌	4	医学のあゆみ	1
ペリネイタルケア	3	看護学雑誌	1
クリニカルスタディ	2	看護教育	1
こころの科学	2	看護実践の科学	1
看護	2	月間ナーシング	1
看護技術	2	助産学会誌	1
周産期医学	2	小児看護	1
Annals of clinical biochemistry	1	生活教育	1
Current Contents	1	精神療法	1
J. A. Nursing	1	地域保健	1
Quality Nursing	1	日本看護学会誌	1
エキスパートナーシング	1	保健婦雑誌	1
ナーシングトゥディ	1	臨床看護	1

に基づき、図書委員会で検討して購入図書を定めている。この方法についての意見を教員に質問した。「不満」と回答したものはなく、「やや不満」3名(12%)「普通」8名(36%)「やや満足」1名(5%)「満足」10名(45%)であった。

4) 購読雑誌の満足度 (表5-4)

現在図書館で定期購読している雑誌についての満足度を教員に質問した。「不満」と回答したものはなく、「やや不満」6名(25%)「普通」7名(29%)「やや満足」1名(4%)「満足」10名(42%)であった。

その他、雑誌の希望について以下の意見が得られた。

- ①購入している雑誌の種類が少ない。
- ②医学系、臨床医学系、産婦人科系雑誌が不足している。
- ③教員に希望をきいて雑誌の継続・更新を決めて欲しい。
- ④一般雑誌も多く欲しい。特に Nature、Science はぜひ入れて欲しい。

5) 雑誌の利用状況 (表5-5)

現在図書館で定期購読している雑誌の利用の程度について教員に質問した。「利用したことがない」1名(4%)「ほとんど利用しない」3名(12%)「時々利用する」12名(48%)「しばしば利用する」6名(24%)「よく利用する」3名(12%)であった。

6) 主に利用する雑誌名 (表5-6)

主に利用する誌名を、利用頻度が高い順に3誌まで質問した。その結果、26誌が挙げられ、そのうち複数回答が得られたのは7誌である。他の19誌については単数回答であった。

7) 図書館運営についての意見

自由回答形式で図書館運営についての意見を教員に質問し、以下の意見が得られた。

- ①自分自身の問題として図書館のことを考えることが必要である。
- ②選書の仕方がよく見えない。
- ③実習があると月曜日しか図書館を利用できないので、短大全体の行事のある日は閉館日になっているが、開館して欲しい。
- ④開館時間中は、いつでも検索端末が利用できると良い。
- ⑤高価な図書を購入しやすくするために、2万円以上を全て備品費として扱う予算執行上の枠を廃止する。
- ⑥蔵書の充実が図りたいので、各教員が研究費で購入

し、研究室に保管してある図書を、共通な図書として紹介してほしい。

8) 図書館に備えるべき機器

図書館に備えるべき機器について、教員に質問し以下のような意見が得られた。

- ①電子図書館。
- ②検索端末の増設。
- ③複数で見られるビデオ装置。
- ④個室でのAV視聴ができないか。
- ⑤視聴覚障害者のための機材
- ⑥ビデオ教材を今の5～10倍にして、もっと利用手順を簡単にして欲しい。
- ⑦文献検索用サーバーとコンピュータ。
- ⑧図書館員が必要と思う物を紹介して欲しい。

20. 図書館の学外者への開放への意見。

現在、試験的に行っている「図書館の学外者への開放」について教員に意見を求め、以下のような回答が得られた。

- ①とても良い。
- ②学外開放は当然のことで、できる限り司書の方からとまどっている利用者に声をかけるなど、より利用しやすい運営をして欲しい。
- ③開かれた大学を目指す点で良いことである。
- ④大学開放の一環として推進すべき。
- ⑤入館時に利用者の確認を確実に行うなど、管理がしっかりできれば、開放をすすめるべきである。
- ⑥今後も積極的に推進して欲しい。
- ⑦学生の利用に支障がない限り、開放すべきである。

このように、教員から得られた「図書館の学外開放」についての意見は、積極的に学外開放を推進する意見が大勢を占めており、学外開放に否定的な意見は皆無であった。

IV. 考察

1. 図書館利用頻度

図書館の利用頻度は学年の進行に伴って増加している。これは、学習内容の変化に伴い図書館の資料の利用がより求められるようになることを示していると考えられる。

2. 図書館利用時間帯

1年生と2年生は講義終了後の時間に図書館を利用していると考えられる。3年生はほとんどの講義が終

り、実習期間であるために、1・2年生に比べて午後の時間帯にはほぼ均等に利用時間が散らばっていると考えられる。また、17時以降の利用者数も多く、この時間帯のサービスを充実させる必要がある。

3. 図書館利用目的

大学図書館の担うべき役割として、学習図書館としての役割と研究図書館としての役割が、その蔵書についても、学習図書と研究図書の二つの性格が指摘されている²⁾。

図書館の利用目的は各学年に共通して、「蔵書の閲覧」「学習する」「本を借りる」が多数を占めている。本学図書館が学習図書館として機能していることを、この結果は示したと考えられる。

図書館の機能や利用方法について、学習進度に応じた教育の必要性が報告されているが³⁾、今回の我々の調査では、「二次資料の検索」を目的とする学生が、1年生に多いことが注目される。「二次資料の検索」は実習やレポート作成等により、3年生が最も高くなると予想されたが、3年生が最低という意外な結果であった。この結果は、学習進度に応じた図書館ガイダンスの段階的施行（例えば、1年生は図書館の概略、2年生は二次資料の検索、3年生は相互貸借のシステムについて説明する等）が本学学生にも必要であることを示唆する結果と考えられる。

4. 開館時間

現在、図書館の開館時間は9時から19時30分である。図書館の開館時間に対する満足度が学年によって変化するということは、図書館利用の頻度が学年によって異なることに関連するものと考えられる。また、学年が進むほど、多くの資料を用いての学習が要求されることを示したと考えられ、そのような学習を行うためには、開館時間の延長が望まれる。

一方、教員の場合には学習や研究の場として研究室を持つことが、学生に比べて教員が図書館の開館時間に対して、高い満足度を与えている要因と考えられる。

5. 蔵書の評価

蔵書に対する評価は、学年が進むほど実習やレポートの作成に際して、より分化した図書が必要になることを反映していると考えられることができる。

購入希望図書は、一般図書では「自然科学」「社会科学」「文学」が多い。これらは、看護を学ぶ上で関

連する領域の図書であるためと考えられる。また、看護図書では「臨床看護」の希望が多い。これは、学生の実習を反映した意見だと考えられる。

6. 図書の貸出し

1) 図書の貸出し数に対する評価

現状の貸出し図書数でも十分と感じている人が多数を占めると考えられる。現状では学生は5冊まで、教員は20冊まで貸出が許可されている（調査当時は、10冊までであった）。

貸出し数の希望では、「5冊以下で十分」と回答した学生が約70%を占めている。これは、学生の学習状況では5冊以下の図書で十分に足りるということなのかもしれない。また、自分が必要な部分だけをコピー等で利用して、図書そのものを借りる必要がないと考えているのかもしれない。

教員においても、現状の貸出し数と同等以下の貸出し数で十分とする回答が約30%である。これらの教員は、図書館の蔵書を基本的に学生のための学習図書として見なし、必要な部分をコピーして使えば、図書をあまり借り出す必要がないと考えているのであろう。

一方、現状の貸出し数では不足と考えている教員が約70%で、最も希望が多いのが「11～15冊の貸出」で、教員全体の47.1%を占める。

そして、少数ではあるが20冊以上の貸出を希望する教員の存在は、図書館の蔵書を研究図書として見なししている可能性がある。教員間にも図書館に期待する役割の相違があることを示唆すると考えられる。

2) 図書の貸出期間に対する評価

図書の貸出期間に対する満足度の学年による相違は、図書館の利用頻度や蔵書に対する満足度の違いと関連があると考えられる。また、具体的な貸出し希望期間については、3週間以内の貸出しで、学生の希望する図書貸出し期間の80%以上を満足させられる。この点は、教員についても同様であり、またこの期間が、実習期間と一致する点も興味深い。

さらに、4週間以上の貸出し期間の希望が皆無である点も興味深い。学生も教員も在籍中であれば貸出しに制限を設けない大学図書館も存在し⁴⁾、本学図書館においてこれと同様のサービスを行うことについて考える上で、この結果は示唆に富むものである。

7. 図書館設備

図書館の設備に対する満足度は、多少の不備はある

ものの、それが大きな不満を引き起こしてはいないと考える。

図書館の設備への希望で最も多いものは、「コピー機と机の不足」を解消して欲しいということである。これは、図書館を学習の場として利用するものにとっては重要なことである。学外利用者の文献複写の増加や図書館ネットワークによる文献複写サービスの増加が報告されているので⁵⁾、少なくとも「コピー機の不足」は、図書館の学外開放を進める上でも考慮しなければならない点であると考えられる。

「配架方法が分かりにくい」という意見もあるが、これは少なくとも学生については学年が進むに連れて減少している。多分に慣れの問題という側面があると考えられる。しかし、「学外者への本学図書館の開放」を進めるにあたり、本学図書館の配架方法が、慣れないとわかりにくいという点は、オリエンテーション等の時に留意すべき点であると考えられる。

「棚の高さが低い」という意見は本学図書館のキャパシティ向上を考えての回答と考えられる。

8. 図書館ガイダンス

ガイダンスの理解についての回答が、学年との関連を示した点は興味深い。時間的経過による変化が考えられる。回答者の約50%が、図書館ガイダンスに対して「普通」以上の理解を示しているが、図書館ガイダンスは図書館を利用する場合に必要なことを説明する場なので、全員に「よく理解できた」と回答してもらいたいことである。より分かりやすい図書館ガイダンスを行うことが必要と考えられる。

図書館利用時の疑問を解決する手段として最も多かったのが、「友人にきいて解決した」という回答である。これは、友人が最も聞きやすいためであろう。これに次いで多い回答が「図書館員に質問して解決した」というものである。これは、図書館利用に際して疑問が生じたときに、図書館員を活用するという点で最も一般的な方法であると考えられる。

「学生便覧を参照して解決した」、「図書館内の掲示物を参照して解決した」という回答は、「図書館員に質問した」という回答と併せて、入学初期に、まだ友人も図書館の利用法を聞ける状態ではなかった時に図書館を利用した場合に活用された方法ではないかと考えられる。

学生であれば「学生便覧を参照する」という方法があるが、学外開放を行う場合、学外者はこのような資

料を持たないので、学生便覧と同程度のことが記された「図書館利用案内」のような資料の準備が必要と考えられる。また、簡単な利用案内の館内掲示が必要と考えられる。

次に、ガイダンスの充実を図る方法であるが、「現状で十分」という回答が最も多くなっている。これに次いで多いのが、「資料等の充実」である。これは、説明を1回聞いただけではわからないから、後で振り返るために充実した資料があるほうが便利だということなのであろう。

「回数を増やす」という回答は、それぞれの学年で必要とされるであろう図書館の利用方法を段階を追って説明できるので、理解度の定着がよい方法だと考えられる。

「必要ない」という回答については、図書館の利用法を基本的に知っているから、全体でのガイダンスが必要ないと考えることができる。一方で、図書館に興味がないためにそのように回答したのではないかと推測された。

以上のことから、ガイダンスの方法は現状で十分理解でき、今後はさらに資料を充実させることでよりわかりやすいガイダンスになると学生の多くが考えている。これは学外者に対する場合でも基本的に同じであり、図書館の利用法と、二次資料の検索方法等の学習進度に合わせた段階的なガイダンスが必要だと考えられる。

9. 図書館員の対応

図書館員の対応については、「普通」以上の肯定的な評価（「普通」「やや満足」「満足」）を与えている人が約80%を占める。これは、概ね現状でよいということを示していると考えられる。

しかし、図書館の学外開放を実施していくことを考えたときに、「やや不満」「不満」という評価をしている人が20%いることを無視するわけにはいかないであろう。「不満」とされた点を見直してよりよいサービスを提供する必要があると考えられる。

10. 図書館利用時の感想

図書館利用時の感想で多かった回答は「集中できる」「静か」であり、次いで「くつろげる」という回答が出されている。一方、「気が散る」という回答や「学生がいる時といない時では異なる」という回答がある。学習目的での図書館利用時の感想は、学習時の状況や

環境によってかなり印象が変わるものであり、図書館における学習環境の保持に努力しなければならない。

V. 結語

- ①学生の図書館利用の頻度は、学年の進行に伴い増加し、学習進度の変化がその要因として考えられる。
- ②学生の図書館利用時間帯は午後の利用者が多く、とりわけ15時以降の利用が多い。
- ③学生の図書館利用目的は学習の場としての利用が主体である。資料の活用は蔵書の借用が主体であり、二次資料の活用は十分なされていない。
- ④図書館の開館時間に対する評価は学生と教員では異なり、その要因は図書館を学習の場としているか否かに拠っていると考えられる。
- ⑤蔵書に対する評価は学年によって異なるが、その理由は学習内容の変化に拠るものと考えられる。
- ⑥蔵書の充実看護に関連する領域の図書から行うべきである。看護図書の場合は、実習に関連した領域の図書の充実が望まれる。
- ⑦学生の貸出し図書数の希望は5冊までであり、貸出し期間は3週間であった。
- ⑧教員の場合には研究図書としての利用度もあり、20冊まで・4週間までの図書貸出しが望ましい。
- ⑨本学図書館の設備については、コピー機と机が学習の場としては不足している。学外開放を行う上でもこれらの設備の整備をできるだけ急ぐことが求められる。
- ⑩本学図書館の配架方法は慣れないとわかりにくいので、オリエンテーションにおいては十分な説明が求められる。
- ⑪図書館ガイダンスをより効果的に行うためには、その資料の充実を図ることが望ましく、館内に利用案内の概略を掲示すると、不慣れな利用者にとっては便利である。
- ⑫図書館員の対応は概ね満足できるものだが、学外開放時にはより細やかな対応が求められている。
- ⑬図書館の利用時の印象は、かなり状況依存的に変わる。

これらのことを踏まえて、本学の開学時の理念である「新潟県における看護情報の発信基地」としての機能を果たせることを目指した図書館運営を行っていきたい。

文 献

- 1) 市川 彰：新設看護短大図書館の構築，看護と情報，2，63-66，1995.
- 2) 高島正夫：大学図書館の運営，19-45，頤草書房，東京，1985.
- 3) 山寺純子：看護学生への文献利用調査と図書館の課題，看護と情報，3，3-9，1996.
- 4) 長谷川潮：高利用度図書館における蔵書構築，現代の図書館，33，109-114，1995.
- 5) 梶とみ子：聖路加看護大学図書館における学外利用者の実状，看護と情報，2，67-73，1995.